

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000357		
法人名	社会福祉法人 知立福祉会		
事業所名	グループホーム ほほえみの里若林 (藤)		
所在地	愛知県豊田市若林東町上外根12番1		
自己評価作成日	令和5年11月8日	評価結果市町村受理日	令和5年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393000357-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393000357-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
聞き取り調査日	令和5年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来る限り入居者様ひとりひとりの希望や意向に沿った生活を送る事が出来る様に個別ケアを行っている。認知症になっても、施設での生活を送る事になっても、これまでの人生や生活、個々の考えや希望を大切にしてお人らしい生活を継続できる様に取り組んでいる。出来ない事よりも出来る事を大切に楽しみや生きがいのある生活をご家族の方と共に目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は見える位置に掲示し実践できる様にしているが、まだ地域との交流や地域資源を活かした取り組みをもっと行っていきたいと思う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェを開催しお越しの地域の方々と交流している。また買い物などがある際は一緒に近所のスーパーなどへ行っている。事業所と地域の連携の強化を図っていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの中で地域の参加者の方へ向けて認知症に関する啓発活動に繋げている。認知症サポーター養成講座の参加や協力を行い事業所の強みを活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催して、事業所の取り組みや課題提示などを報告し、意見やアドバイス等を頂いて改善向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当施設で起きたアクシデントや感染状況の連絡報告を行い場合によってはアドバイスや助言を頂いている。近年は感染予防課とも連携を図っている事が多い。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常のケアの中で身体拘束にあたる様な行為を行っていないか等を定期的に振り返りと身体拘束に関する勉強会を行い学んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時、6か月に一度の高齢者虐待防止についての指針、マニュアルなど取り組みについて周知し、虐待防止関連についての勉強会や検討会を行い虐待を見逃さない取り組みを行っている。不適切ケアについても見逃さない様に職員間で協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	深く学ぶ機会はありませんが、管理者等が把握して必要に応じて対応している。成年後見制度を利用している入居者様もみえ対応をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約に関して管理者を中心に契約書の説明や各同意を得ている。なるべく分かりやすく説明をし家族様等に理解をしてもらう様に契約を進めている。解約時に納得して解約出来る様に最初の段階で解約の条件も説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に職員はご家族様の意見を聞く様に対応をする意識を持っている。意見要望があったら職員間で共有して内容によっては会議等で改善出来る様に取り組んでいる。家族様へのアンケートの内容も職員、外部評価等で公表している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や考えをユニット会議や個人面談を行い聞き、良い案や改善すべき事柄は職員と管理者で一緒に行っていく。リーダーにも職員からの傾聴や面談も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員の頑張りや成果を評価し賞与等に反映し結び付けている。労働時間や休暇を管理してむりの無い勤務形態に配慮して行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に合わせた研修、勉強会、指導を行い職員のスキルアップ、介護技術の向上に努めている。本人の希望する研修参加が出来る様に希望も聞いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加して他施設の職員との交流を図り情報交換を行っている。また、GHの施設間の情報交換会に参加して他のGHでの取り組みなどについて話し合いをする機会があり参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で本人様やご家族様の生活を送る上での要望や意見、不安等が無いが慎重にコミュニケーションを図っている。時に初期の段階は家族様には入居者様の精神状況を説明理解しご協力を頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前より、ご家族様に対しても入居者様同様に不安や要望を聞き安心して頂ける様に努めている。ご家族様との信頼関係も大切に些細な事や生活の様子などをしっかりとお伝えする様に積極的に声掛けを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまで利用していた、必要としていたサービスを今後も継続していく事が良いか等の判断を本人、ご家族とは無し判断し、GH入居後も可能な限り利用できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事(調理や掃除、洗濯など)などこれまで行ってきた事をその方の状況を判断してGHでも行える様に声掛けし共に生活を送る関係性を保てる様に意識して取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には面会等、入居者様とお会いする機会をなるべく多くして頂いている。家族も支援をする役割を入居前より理解ご協力を得て共に支える一員として関わって頂いている。面会時には近状報告等を適時行いお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのご友人や場所との関りが途絶えない様に、希望に応じて自宅に帰ったり、馴染みの場所(神社や喫茶など)へ出向く方もみえる。希望などを表せれない方への対応が出来ていない状況。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の会話や交流を図れる様に気の合う方同士で過ごす時間を設けたり、配置を工夫などしている。孤立してしまう事が無い様に、入居者同士でなく職員も一緒に関わりを持つ様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了や、退居になった際もご本人様や家族が安心して過ごせる様にこれまでの関係性や関わりを大切にして相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や訴えがあった際は傾聴する事を第一に考え、共感する気持ちを忘れない様に心掛けている。そしてその思いに沿ったケアや内容の実践する様に意識している。困難な場合にはその方の表情や態度を汲み取りその方の立場となって考えて見る事を実践していきたい。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の日常的な会話や関りからこれまでの生活の様子や仕事、家族の事、大切にしている事などを聞き生活の中で活かす事が出来る様に情報共有し把握に努めている。表せられない方は家族から聞き出す様に努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での過ごし方をそれぞれの状況に応じて変えている。家事の手伝い、体操や外出などその方の能力や希望を伺い様子を見ながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の様子や変化を細かく観察し申し送りや記録への記載を行いスタッフ間で共有し意見を出し合いその時その方にあったケアを実践出来る様に協力し合っている。家族への説明も変更時や更新時等に説明し意見を伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気持ちや身体状況等の変化など気付きも含め記録し、個々の生活記録を基に情報共有し現状の介護計画との照らし合わせを定期的に行い確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GH内でのサービスに拘らず、現在の状態を把握して様々なサービスを検討して利用し可能な限りGHでの生活を継続できる様に取り入れている。家族へも相談や希望も伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との関りを活かした生活をする事が困難な方も多く見えるも、その方々を支えている地域資源の把握と活用出来る様な取り組みを今後行えば良いと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、又はこれまでの主治医を継続するかを入居前に本人(家族含む)様に決めて頂き健康管理を行っている。内科項目以外の科目は必要に応じて外部受診を家族とすすめていき、健康状態の家族には都度報告をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面や内服に関する事など気付く事があれば看護師に報告と相談を行う様にしている。また看護師もユニットに入り入居者のケアにあたりながら確認実践し、状況に応じて医療機関への受診、相談もやっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な際は、医療機関と家族と連携を図り治療内容や期間、退院後の状態の目標を共有しスムーズに退院後の受け入れや支援が出来る様に努めている。適時状況確認等の連絡をし小まめな情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を定め当施設で重度化した際の対応等についてを事前に説明し同意を得ている。重度化してもなるべくGHでの生活を可能な限り継続できるようにスタッフの技術と知識を高められる様にスキルアップを図っている。また、地域の他施設との連携を取り、転居等の必要がある場合は家族へのサポートを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し備えている。また、実際に緊急時に対応出来る様に外部研修や勉強会を開催してスタッフが瞬時に対応出来る様に努めている。消防署と共同で緊急時の対応や救急車の要請の確認訓練も実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施し、火災訓練と震災時の訓練を入居者を含めて行っている。地域の消防署との通報訓練や防災の業者の機器の取扱い説明等も行い冷静に対応出来る様に準備をしている。地域との連携と協力体制の確保まで至らず、避難場所の小学校等との連携を確保していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧に敬意を持った声掛けと態度で接する様に気を付けている。トイレの事やプライバシーや自尊心に関係する内容は小さな声で行ったり場所を変える等の配慮をする様にユニット内で統一している。中には、配慮内声掛けをする職員が居たらしっかりと統一できる様にしたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で選択肢や希望を持った声掛けをして自己決定を促す様に工夫をしている。選択できなかったり希望を言えない方などは表情や態度などをみて本人本位で決められる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースやタイミングに合わせた起床時間や食事時間、休息などの過ごし方を個別化している。職員のタイミングや都合で時間を決めたりケアをしてしまう事もあるので気を付けたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方々によってお化粧をしたり、毛染めを行ったりオシャレや身だしなみをいつまでも大切に出来る様に支援している。普段の整容や身だしなみも意識的に行っているが、つい見過ごしてしまう事もあるので起床後等に確認したい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや盛り付け、食器洗いなど職員だけで行わず無理の無い程度で入居者様も一緒に行える様に声掛け実施している。失敗や分からない事はスタッフがサポートして安心して調理が出来る様な声掛けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量などを毎日記録して栄養摂取状況や食事摂取量などを確認している。個々の好みや食事状態に合わせた量や形態にも工夫して量や品を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケア、歯磨きを行っている。自己で可能な方や支援が必要な方などその方の状態に応じて対応をしている。口腔内の観察まで出来たら良いが人によっては出来ない方も居る為十分な観察が出来ていない事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の尿意等の排泄状況に合わせて布パンツや紙パンツ、パットを使用している。朝と夜でパットの大きさを変える等であるべくトイレで排泄が出来る様な声掛けや誘導を行っている。個人の排泄パターンを把握して間隔やタイミングを個々に行い不快の内排泄を心掛けている。失敗等があった際は職員が自尊心に配慮した対応に心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方が多く、水分量や運動への参加等の工夫をしている。個々の便秘状況に応じて内服調整を看護師と連携して行い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングや時間などをご本人様に希望を伺って希望に応じて入浴が出来る様に調整している。一番風呂や長湯が良い。など個々のこだわりにも可能な限り実現できる様にスタッフ間で調整している。入浴が嫌な方への対応が困難になる時も多々ある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で独りになりたい、お部屋で体を休めたいなど個々の状況によってそれぞれで生活を送っている。がその訴えが出来ない方は座りっぱなしにならない様に適時居室での休憩時間を設ける等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋等を活用してその方々の内服薬や効果副作用を確認している。看護師と連携して内服による変化などを報告している。服薬の管理や飲み込み支援など職員でその方に合った内服が出来る様に支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方が役割をもって家事などのお手伝いを行って頂いている。役割を持つことで生活に喜びや生きがいを感じられる様に、感謝の言葉を忘れずに声掛けしている。出来ない方も多くみえるが、手伝いにこだわらず楽しみや気分転換が出来る様に支援していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたい、家に行きたい、など個々で希望する外出先が異なる為、個々での外出を可能な限り行っている。家族にも協力を頂いて外食などのお出掛けをする機会も最近増えてきている。希望の無い方でも時々屋外へ出て気分転換を図って頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が現金を持っていないが、中には個人でお金を持たれている方もいる。ヤクルトや買い物への外出の際はレジや支払いを一緒に行いお金の支払い等をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の訴えや希望がある時は電話をして頂く事もある。その際はご家族に事前に確認を取ってお話等をして頂いてる。手紙を友人から頂いたりと家族や友人の方々といつでも繋がれる環境をつくっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の希望や習慣に合わせて居室内の室温や照明などを設定している。共用部分も不快な環境(雑音や臭い、寒い、暑いなど)になっていないかその都度確認して過ごしやすい環境整備を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファなど少し離れた場所で独りになれたり、気の合う入居者さん同士で同じテーブルに座って頂いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より居室には馴染みの者や好みの物を持ち込んで頂いている。個々の居室はその方々の自由に配置し使って頂く様にしている。身体状況の変化等が生じた際は本人、ご家族様と相談して変更や追加などをして状況に応じて対応をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の方でも分かりやすい、過ごしやすい、安心できる環境となる様に、家庭的な雰囲気の中で表記や場所等の工夫をしてその方がなるべく自立できる様な環境整備に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000357		
法人名	社会福祉法人 知立福祉会		
事業所名	グループホーム ほほえみの里若林 (桜)		
所在地	愛知県豊田市若林東町上外根12番1		
自己評価作成日	令和5年11月8日	評価結果市町村受理日	令和5年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393000357-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393000357-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
聞き取り調査日	令和5年11月14日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来る限り入居者様ひとりひとりの希望や意向に沿った生活を送る事が出来る様に個別ケアを行っている。認知症になっても、施設での生活を送る事になっても、これまでの人生や生活、個々の考えや希望を大切にしてその人らしい生活を継続できる様に取り組んでいる。出来ない事よりも出来る事を大切にして楽しみや生きがいのある生活をご家族の方と共に目指している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は見える位置に掲示し実践できる様にしているが、まだ地域との交流や地域資源を活かした取り組みをもっと行っていきたいと思う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりの中で当施設で開催している認知症カフェへ入居者様も参加し、地域の狸山カフェへ参加をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの中で地域の参加者の方へ向けて認知症に関する啓発活動に繋げている。認知症サポーター養成講座の参加や協力を行い事業所の強みを活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催して、事業所の取り組みや課題提示などを報告し、意見やアドバイス等を頂いて改善向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当施設で起きたアクシデントや感染状況の連絡報告を行い場合によってはアドバイスや助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての指針をマニュアルを整備し全職員に対し周知を行っている。定期的な委員会、検討会を実施し取り組みについての見直しや実施した場合の振り返りを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時、6か月に一度の高齢者虐待防止についての指針、マニュアルなど取り組みについて周知し、虐待防止関連についての勉強会や検討会を行い虐待を見逃さない取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	深く学ぶ機会はありませんが、管理者等が把握して必要に応じて対応している。成年後見制度を利用している入居者様もみえ対応をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約に関して管理者を中心に契約書の説明や各同意を得ている。なるべく分かりやすく説明をし家族様等に理解をしてもらう様に契約を進めていく。解約時に納得して解約出来る様に最初の段階で解約の条件も説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に職員はご家族様の意見を聞く様に対応をする意識を持っている。意見要望があったら職員間で共有して内容によっては会議等で改善出来る様に取り組んでいる。家族様へのアンケートの内容も職員、外部評価等で公表している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が運営や業務に関して意見が言い易い雰囲気大切にしている。個人面談を行い個々の課題やそれぞれの意見要望を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員の頑張りや成果を評価し賞与等に反映し結び付けている。労働時間や休暇を管理してむりの無い勤務形態に配慮して行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に合わせた研修、勉強会、指導を行い職員のスキルアップ、介護技術の向上に努めている。本人の希望する研修参加が出来る様に希望も聞いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加して他施設の職員との交流を図り情報交換を行っている。また、GHの施設間の情報交換会に参加して他のGHでの取り組みなどについて話し合いをする機会があり参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より本人様に困っている事や不安に思う事、要望等を聞きながら安心して生活を始められる様に行い初期の初期の段階から信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前より、ご家族様に対しても入居者様同様に不安や要望を聞き安心して頂ける様に努めている。ご家族様との信頼関係も大切にして些細な事や生活の様子などをしっかりとお伝えする様に積極的に声掛けを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHの施設サービスに限定せず、本人様のニーズに合わせて必要なサービスが無いかをご家族様と話し合いながら考え必要に応じて利用が出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	この方にとって必要な支援は何かを判断して共有し、入居者様の出来る事はご自分で行って頂く様な関わり方を意識している。入居者様にと手は家という認識をもち家族の様な関わり方を意識して取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の存在を大切にして、家族もその方を支える大切な役割とし、可能な限り家族としての関わりを維持して行ける様にしている。面会や訪問をしやすい雰囲気を作り家族との時間を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの方の馴染みの場所や人、これまでの生活との継続支援を大切にしている。家族のみならず友人や知り合いの方も面会面会などでお越し頂く事もある。その為の事前の情報収集も大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士と一緒に外出をしたり、日中も過ごせる様な工夫をして他者との交流が図れる様に工夫している。に声掛けや訪室を行い入居者が孤立や不安にならない様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了や、退居になった際もご本人様や家族が安心して過ごせる様にこれまでの関係性や関わりを大切に相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方一人一人に対して思いや希望、暮らし方を傾聴し、可能な限り実現できる様にしている。中には思いや希望を表せれない方もみえ、その方々にはその方の表情や様子を判断して考えながら行っているが本当にこれでいいのか不安になる事もよくある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族より話を聞き、これまでの生活の事や馴染みの事などの把握をし、可能な限り個々状況に沿ったケアが出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方を大切に、毎日の様子を記録し、職員同士で共有している。変化や課題などがあつた際はケース検討などで話し合いをして改善などの必要性について検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で一人ずつの現状の把握と生活上の課題を話し合いその時々状況に合わせて介護計画の見直し変更を行っている。本人様やご家族様にも意見や要望を聞き反映できる内容は取り入れている。会議内でもどの職員でも意見が言いやすい様に司会者は工夫している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の変わった事や特変条項はある場合は細かく記載している。職員の考察や対応も記載する様になっている。ケアプラン項目の実践記録の記載がなかなか記載できていないと思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GH内でのサービスに拘らず、現在の状態を把握して様々なサービスを検討して利用し可能な限りGHでの生活を継続できる様に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々それぞれの地域資源は何かを把握する事が出来ていない方も多く見られるが、把握できている方の地域資源(家族、友人、場所)を活用出来る事は積極的に取り入れていきたい。実際は一部の方のみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、又はこれまでの主治医を継続するかを入居前に本人(家族含む)様に決めて頂き健康管理を行っている。内科項目以外の科目は必要に応じて外部受診を家族とすすめていき、健康状態の家族には都度報告をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と一緒に看護師も日常のケアにあたり日々の健康状態の把握に努めている。介護職員と連携を図り変化や健康上の課題がある際は主治医への報告相談を行い医療との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な際は、医療機関と家族と連携を図り治療内容や期間、退院後の状態の目標を共有しスムーズに退院後の受け入れや支援が出来る様に努めている。適時状況確認等の連絡をし小まめな情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を定め当施設で重度化した際の対応等についてを事前に説明し同意を得ている。重度化してもなるべくGHでの生活を可能な限り継続できるようにスタッフの技術と知識を高められる様にスキルアップを図っている。また、地域の他施設との連携を取り、転居等の必要がある場合は家族へのサポートを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し備えている。また、実際に緊急時に対応が出来る様に外部研修や勉強会を開催してスタッフが瞬時に対応が出来る様に努めている。消防署と共同で緊急時の対応や救急車の要請の確認訓練も実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施し、火災訓練と震災時の訓練を入居者を含めて行っている。地域の消防署との通報訓練や防災の業者の機器の取扱い説明等も行い冷静に対応が出来る様に準備をしている。地域との連携と協力体制の確保まで至らず、避難場所の小学校等との連携を確保していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けをや態度を本人様の人格等に合わせて行う様に慎重に選り対応している。その方の歩んできた人生を敬意を持って接する様に心掛けている。時々慣れ親しすぎる接し方をしてしまう時があり、親しき中にも礼儀あり。常に目上の先輩という認識を忘れない様に意識的に接していきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が可能な方には質問や声掛け方法を工夫して決めて頂ける様にしている。その内容を可能な限り叶えられる様に工夫している。表情や仕草を見て本人が望まれているか等も留意しながら接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の日々の様子を確認し声掛けを行っている。意思疎通が困難な方には仕草や表情、行動を読み取って支援をしている。忙しい時などはついこちらのペースになってしまいますので気を付けたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧やネックレス、帽子などご本人様の好みや身だしなみの習慣に合わせて過ごして頂いている。朝の整容や身だしなみを整る等の支援を行っているも、時々で出来ていない時もあるので毎日行える様に統一していく必要がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事にはその時々を感じられる様にメニューを選び、個々の好み等を把握して盛り付け等を行っている。また、食事作りをユニットで行い職員と共に調理や盛り付けを行い食事を作るところから入居者の方と行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事状況にあった量や形態、飲み物の種類を個別化して栄養や水分がしっかりと取れる様に工夫をしている。栄養も管理栄養士により献立食材を決めて提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔を保っている。ご自分で出来る方、介助が必要な方などそれぞれの方法で行っている。口腔内の細かいと部分まで確認が取れない方もみえる為、定期的に歯科専門の方に見て頂くのが理想も実現できていない。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況や間隔など個々での特性を把握して情報を共有しトイレ内で排泄が出来る様に声掛けや誘導を行っている。パット内などで排泄をされる際もトイレでの交換や清潔を保つ等を行い不快感や自尊心の配慮に気を付けている。なかなか完全にトイレ内での排泄というのは難しいと思うが実現していきたい。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には牛乳や小まめな水分の摂取を進めている。運動や日中の活動も皆さんに薦めて行っている。個々の状況に応じて便秘薬や下剤を服用して便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	都度体調確認を行い、一人一人に入浴前に声掛けを行い希望を伺っている。清潔を保つ為、週に2回以上の入浴が出来る様に回数か間隔にも配慮している。同性介助も可能な限り行い、曜日や時間を設定しない様に行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休息を取り本人様のペースで過ごして頂いている。判断や自己で行えない方などは表情やその方々の体力等に合わせてこちらから休息時間を確保している。日中なるべく活動出来る様にし夜間の不眠や昼夜逆転しない様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服薬の内容を全て理解する事は出来ない。看護師と連携して服薬に関する変化や副作用、用量が適しているか等の共有を行っている。また、飲み忘れや誤薬予防の為内服チェックは慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々で出来る事、やりたい事などの違いを把握してその方々に合った役割り作りを行っており、お手伝いなどをして頂いている。気分転換やその方の楽しみなどが生活の中で行える様に散歩や創作など個々に合わせて行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナによる外出の自粛も少なくなり、少しでも外出や屋外にできる事を家族の協力を頂きながら再開している。買い物や散歩、外出の機会を日々の中で設けてなるべく希望に沿った場所と内容を行える様にしている。ただ、大変難しい場所への外出はお応え出来ない事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が現金を持っていないが、中には個人でお金を持たれている方もいる。ヤクルトや買い物への外出の際はレジや支払いを一緒に行いお金の支払い等をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などを使いたい時は、だれでも使える様にしている。また、希望等があればご家族様にも協力を得て電話で話をしたりする事もある。手紙のやり取りはほとんど行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の中で快適な空間となる様に、照明や温度、音や光などを調整している。また、施設感を出さない様に掲示物なども家庭的な雰囲気になる様に工夫している。個々での居室ではそれぞれの好みや個人差によって本人に合わせた空間作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の気の合う、合わないを意識して場所の配置等を工夫している。独りになりたい時やみんなで過ごしたい時などその時々的心境で過ごす場所を変えて過ごす事もある。共同生活の中でトラブルや気の合わない人との生活への配慮が起きる時もありかだいとなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より居室には馴染みの者や好みの物を持ち込んで頂いている。個々の居室はその方々の自由に配置し使って頂く様にしている。身体状況の変化等が生じた際は本人、ご家族様と相談して変更や追加などをして状況に応じて対応をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の方でも分かりやすい、過ごしやすい、安心できる環境となる様に、家庭的な雰囲気の中表記や場所等の工夫をしてその方がなるべく自立できる様な環境整備に努めている。		